

2022年(令和4年)1月19日 水曜日 (8)

## 中経



経営支援NPOクラブ

川上 博史



最近、一生に一度は訪れてみたいと思っていた能登演劇に行き、仲代達矢「役者70周年記念作品」無名塾による『左の腕』舞台公演を鑑賞した。今年89歳になつた仲代達矢は、無駄なもの余分なものを見除して、純粹培養の「効率」だけをすべての価値観の尺度にする現代社会において、「不寛容」がこのところあちこちで根をはひこさせている現状に、戦争体験者の徵する事象である。自由の名一人として警鐘を鳴らしている。この物語の主人公「卯助」は、一度罪を犯したために左

腕に入れ墨を彫られ、世間から距離を置いた暮らしを強いられている。心の救いが一生訪れることがない「不寛容」な社会で、彼は人生を終えなければならないのか、この疑問を観客とともに考えようとする意図での作品は作られている。

一方、最近目立つて増えてきたのが、SNSの急速な普及により、自分の主義・信条と合わない行動をする人を批判、非難、誹謗中傷、暴行、攻撃する「不寛容社会」を象

す。この状況は、矢張り「不寛容」がこのところあちこちで根をはびこせている現状に、戦争体験者の徵する事象である。自由の名一人として警鐘を鳴らしている。この物語の主人公「卯助」は、一度罪を犯したために左

## 不寛容社会の危険な兆候

# アニマルウェルフエア「五つの自由」に学ぶ

議会襲撃、女子プロレスラー木村花を精神的に追い詰めた自殺、中川翔子への誹謗中傷、小室真子さんへの無配慮な言動など、社会規範を逸脱した針小棒大な表現で執拗に相手を攻撃する「不寛容」事例は枚挙に挙げきれない。仲代達矢が何よりも怖いているのは、こうして「不寛容」が常に戦争に道を開いてきたという事実を自ら体験してきたからだ。

話はそれだが、アニマルウェルフエア（動物福祉）という攻撃する「不寛容社会」を象徴する事象である。自由の名のもとに発せられるさまざまなものには、トイプードル前米大統領支持者による

議会襲撃、女子プロレスラー木村花を精神的に追い詰めた自殺、中川翔子への誹謗中傷、小室真子さんへの無配慮な言動など、社会規範を逸脱した針小棒大な表現で執拗に相手を攻撃する「不寛容」事例は枚挙に挙げきれない。仲代達矢が何よりも怖いているのは、こうして「不寛容」が常に戦争に道を開いてきたという事実を自ら体験してきたからだ。

話はそれだが、アニマルウェルフエア（動物福祉）という攻撃する「不寛容社会」を象徴する事象である。自由の名のもとに発せられるさまざまなものには、トイプードル前米大統領支持者による

議会襲撃、女子プロレスラー木村花を精神的に追い詰めた自殺、中川翔子への誹謗中傷、小室真子さんへの無配慮な言動など、社会規範を逸脱した針小棒大な表現で執拗に相手を攻撃する「不寛容」事例は枚挙に挙げきれない。仲代達矢が何よりも怖いているのは、こうして「不寛容」が常に戦争に道を開いてきたという事実を自ら体験してきたからだ。

話はそれだが、アニマルウェルフエア（動物福祉）という攻撃する「不寛容社会」を象徴する事象である。自由の名のもとに発せられるさまざまなものには、トイプードル前米大統領支持者による

議会襲撃、女子プロレスラー木村花を精神的に追い詰めた自殺、中川翔子への誹謗中傷、小室真子さんへの無配慮な言動など、社会規範を逸脱した針小棒大な表現で執拗に相手を攻撃する「不寛容」事例は枚挙に挙げきれない。仲代達矢が何よりも怖いているのは、こうして「不寛容」が常に戦争に道を開いてきたという事実を自ら体験してきたからだ。

話はそれだが、アニマルウェルフエア（動物福祉）という攻撃する「不寛容社会」を象徴する事象である。自由の名のもとに発せられるさまざまなものには、トイプードル前米大統領支持者による

議会襲撃、女子プロレスラー木村花を精神的に追い詰めた自殺、中川翔子への誹謗中傷、小室真子さんへの無配慮な言動など、社会規範を逸脱した針小棒大な表現で執拗に相手を攻撃する「不寛容」事例は枚挙に挙げきれない。仲代達矢が何よりも怖いているのは、こうして「不寛容」が常に戦争に道を開いてきたという事実を自ら体験してきたからだ。

話はそれだが、アニマルウェルフエア（動物福祉）という攻撃する「不寛容社会」を象徴する事象である。自由の名のもとに発せられるさまざまなものには、トイプードル前米大統領支持者による